

安部磯雄 著 社會主義運動家。(元治二年一月四日英前國生れ、昭和
二十四年一月十日歿(一九五一年元月)。舊姓岡本。明治十七年同志社卒。
在學中受洗、卒業後岡山で教師。二十四年アメリカ留學。二十一年社
會主義研究會を組織、二十二年社會主義協會を改組し會長に就任。大
正十二年日本フエビアン協會組織、昭和二年衆議院議員。戦後日本社
會黨結成に参加。

著譯書 『社會主義論』(明治二十六年七月一日片山活刊)、 『^{地上の}理想國

瑞曲』(再版・明治二十八年二月一日自刊、平民社「平民文庫」)、

『北米の新日本』(再版・明治二十八年十二月十日博文館)、 『^{土曜}於の

會心」名士講演集・第一輯』(合著・千葉師範學校土曜會編、明治四十

一年二月) 一九百千葉・土曜會)、 『理想の青年』(赤司繁太郎合著、

明治四十一年七月) 二十日十代田書房・大阪本梁江堂)、 ノルマン、エ

ンセル著 『現代戰爭論―兵力と國力の關係』(譯、大正元年九月) 二十

九日博文館)、 『歐洲社會黨の現状』(大正六年五月) 二十五日泰山房

書店)、 『子法本位の家』(大正六年七月十日實業之日本社)、 『新

日本の建設』(合著・小松謙助編、大正十一年六月十日岩波書店。小

林久一人獄對問出版)、 『社會主義の時代』(大正十二年六月十五日

科學史類編普及會)、 『大平洋を中心して』(合著・徳富健次郎編、大

正十二年九月一日文化生活研究會)、 『經濟隨想』(合著・東京朝日

新聞經濟部編、昭和二年五月七日日本評論社)、 『^{黨の}精神』(昭

和二年九月十七日社會主義黨本部、フアラ出版部

『社會主義黨パンフレット』)、 『國民の審判』(評

論) 名義、昭和五年一月十五日先進社。赤松克麿



執筆)、『政治道徳論』(昭和五年一月)、『十五のソラ』(社)、『青年
と理想』(昭和十一年十月)、『白岡倉書房』、『戦後の理想問題』(合
著)、『昭和十四年九月十五自第一書房』、『戦時體制版』(一)、『往年の聲風』
(合著)、『昭和十五年八月)、『二十の朝日新聞社編刊』、『^{地上之}理想國瑞世』(權
田保之助解説)、『昭和二十二年五月)、『二十五自第一出版株式會社』、『日本社
會問題名著選』(一)、『自叙傳』、『社會主義者とわがま』(一)、『昭和二十二年
十一月八日明善社』等。

文獻、片山哲著、『安部磯雄伝』(昭和二十二年六月十日毎日新聞社)、
早稲田大学校史資料室編、『安部磯雄一考の著作と生涯』(昭和二十九
年十月一日早稲田大学教務部)等。